いきいきチャレンジ

福岡市・NPO法人SFD21JAPAN

地域の居場所で「隠れた非行」のSOSに応える

独立行政法人福祉医療機構（WAM）が行う社会福祉振興助成事業（WAM助成）は、国庫補助金や寄付金を財源とし、高齢者・障害者などが地域のつながりのなかで自立した生活を送れるよう、NPOやボランティア団体などが行う民間の創意工夫ある活動などに対し、助成を行っています。

今号では、WAM助成を活用したNPO法人SFD21JAPANの取り組みを紹介します。

若者の立ち直り支援に取り組む

福岡市にあるNPO法人SFD21JAPANは、非行や不登校・ひきこもり等の生きづらさを抱える若者に寄り添いながら、居場所づくりや立ち直り支援に取り組んでいる。

同法人は、ボディビルの競技者である理事長の小野本道治氏が友人と自宅納屋にジムを開設したところ、非行行動に悩む中学生の保護者から受け入れの相談を受けたことをきっかけに、若者の立ち直り支援を開始することとなった。その後、ジムは口コミにより若者たちが集まる居場所となったことから、立ち直り支援活動を本格化させるため、平成24年10月にNPO法人化して活動の幅を広げている。

現在の主な活動としては、若者を対象にした居場所の運営や相談支援事業を行うほか、福岡市こども未来局の「子ども・若者活躍の場プロジェクト」に参加し、若者の農業体験を実施するとともに、生きづらさを抱える若者とつながる場として「腕大学天神校」を定期的に開催している。

腕大学と若者の立ち直り支援の取り組みについて、小野本理事長は次のように説明する。

「腕大学は、福岡市天神にある警固公園で公開アームレスリング体験会として毎月第4土曜日16～21時の時間帯に開催しています。活動では、公園にアームレスリング台を設置し、若者とアームレスリングを通して対話を行い、内面に悩みやストレスを抱える若者との接点をつくり、信頼関係を築きながら支援につなげる場としています。また、非行やさまざまな課題を抱える若者への支援として、立ち直りに向けた可能性を探り、行政や支援団体と連携し、若者に寄り添いながら支援をコーディネートすることに取り組んでいます」。

これらの活動が評価され、平成29年に福岡県の「非行等からの立ち直り支援功労団体」県知事表彰、令和2年に「安全安心なまちづくり関係功労者」内閣総理大臣表彰を受けている。

「隠れた非行」を把握し、支援につなげる

同法人は、令和4年度のWAM助成を活用し、「『隠れた非行』の若者に対する多様な対話を通した支援事業」を実施した。

WAMからひと言

長年の活動実績と多くの団体との連携を活かし、変化し続ける支援ニーズをとらえ、的確なアプローチを実施されました。連携団体や行政からの紹介等によって新規の参加者が増えていくなかで、参加者同士が相互作用し、社会性の向上や活発なコミュニケーションが多々みられるようになった点を評価しています。

今後の活動の中で、自団体があげた成果について分析し、これらの成果をあげるための取り組みを整理して広く周知することで、より広域に支援が広まっていくことを期待します。

この著作物は著作権法、国際条約およびその他の知的財産権に関する法律や条約によって保護されています。版権者（独立行政法人福祉医療機構）ならびに著作権者の許可を得ない複製（コピー）、再配布を、固くお断わりいたします。

同事業は、「隠れた非行」の問題構造の把握と、対話を通して若者が他者に対する信頼を回復させることを目的に、①若者の見えづらい問題にアプローチする腕大学の開催、②SNS環境の整備、③カウンセリングルームの開設、④支援に関する学びの場の開催を行った。

「当法人は、長年にわたって若者の立ち直り支援に取り組んできましたが、かつてはコンビニの前で座り込んだり、暴力や暴走を繰り返すなど非行はわかりやすいものでした。しかし、近年は不登校・ひきこもりや家庭内暴力が増え、一見非行に見えないものへと質的に変化してきました。そのため、助成事業では、現在進行形で法に抵触するいわゆる不良ではないものの、今後非行に巻き込まれていく可能性のある若者を『隠れた非行』の若者と呼称し、彼らが参加しやすい多様な腕大学を開催することにより、さまざまな課題を抱える若者と出会い、対話を通して問題構造を把握し、寄り添いながら支援につなげることを目指しました」（小野本理事長）。

古民家を活用したフリースペース「がやがや門」で開催した「腕大学糸島キャンパス」。家庭的な雰囲気のある居場所として、こども食堂も運営している

若者との対話を生む多様な腕大学を開催

若者の見えづらい問題にアプローチする腕大学の開催では、これまで福岡市天神の警固公園で実施してきた「腕大学天神校」に加え、新たに「腕大学糸島キャンパス」、「腕大学長垂海岸」を開催した。

新たに開催した腕大学について、事務局の中嶋康子氏は次のように説明する。

「『腕大学糸島キャンパス』は、福岡市西区にある2階建ての古民家を活用したフリースペース『がやがや門』を使用し、隠れ家的な雰囲気のある居場所として定期的に開催しました。1階には調理スペースがあり、連携団体から提供を受けたフードバンクの食材を用いて、こども食堂を運営することで、若者だけでなく、ひとり親家庭の親子や地元住民にも利用される地域の交流場所となっています。『腕大学天神校』は、多くの人が集まるため、若者とつながる場としてよいのですが、『糸島キャンパス』は居場所としての要素が強く、ゆっくり話を聞いてもらいたいという若者やひとり親家庭の親

令和４年度事業

NPO法人 SFD21 JAPAN

「隠れた非行」の若者に対する多様な対話を通した支援事業

WAM 助成 e-ライブラリー

事業概要

助成額
177万6千円

【事業概要】
「隠れた非行」の問題構造の把握と若者の他者に対する信頼を回復することを目的に、地域社会における多様な対話をコーディネートする事業

【実施内容】

◆若者の見えづらい問題にアプローチする腕大学の開催
これまで開催してきた腕大学に加え、新たに市内３カ所で腕大学を含む居場所づくりを行い、対話を通して若者の見えづらい問題にアプローチ

◆SNS環境の整備
ホームページやFacebook、Instagramを開設し、活動を周知する環境を整備

◆カウンセリングルームの開設
問題を抱えた若者やその家族が、安心して相談できるカウンセリングルームを開設

◆支援に関する学びの場の開催
法人スタッフと地域の支援関係者を対象に、支援スキルの向上を目的とした研修会を開催

【成果】

◆市内４カ所で計14回開催した腕大学は、延べ462人が参加した。対話を通して悩みやストレスを抱えている若者との接点をつくり、信頼関係を築きながら支援につなげることができた

◆開設したカウンセリングルームでは、問題を抱えた若者と家族の相談対応とともに、関係機関とのケース会議を行い、延べ420人が利用した

◆計11回開催した支援者研修会は、法人スタッフや地域の支援関係者など、延べ172人が受講した。支援に関する知識を学ぶとともに、支援者同士の顔の見える関係が構築された

助成事業後の波及効果
居場所づくりの活動が評価され、令和６年４月から福岡市の「若者の居場所づくり活性化事業」を受託することに至った

この著作物は著作権法、国際条約およびその他の知的財産権に関する法律や条約によって保護されています。版権者（独立行政法人福祉医療機構）ならびに著作権者の許可を得ない複製（コピー）、再配布を、固くお断わりいたします。

子の参加が多いことが特色となっています」。

また、「腕大学長垂海岸」では、行政と協働し、海岸清掃とアームレスリングを組みあわせた腕大学を開催し、若者がボランティア活動に参加するとともに、地域住民や行政関係者と交流する場になっている。

そのほかにも、福岡市の農業体験事業で毎年開催している収穫した作物の販売会で、参加した若者が販売に携わり、アームレスリングを通して来場者とコミュニケーションを図ることに取り組んでいる。

支援者の知識向上と育成を目的にした研修会には、法人スタッフと参加希望のあった地域の支援関係者が受講した

「腕大学長垂海岸」では、行政と連携して海岸清掃とアームレスリング体験会を組みあわせたプログラムを実施。若者がボランティア活動に参加するとともに、地域住民や行政関係者と交流する機会となった

問題を抱えた若者や家族が、体面的な心配をせずに相談ができるカウンセリングルームを開設。関係機関や支援団体とケース会議を行う際にも活用している

地域や学校に戻れる環境をつくる

助成期間中の腕大学の利用実績は、市内4カ所で計14回開催し、課題を抱える若者やひとり親家庭の親子など延べ462人が参加した。

活動を通して出会った若者のなかには、少年院や児童相談所に収容・保護されたあと、保護者が受け入れを拒否し、本人が望んでいないにも関わらず、自立援助ホーム、自立準備ホームで暮らしているケースがあったという。

「必ずしも正しいとは限りませんが、このような状況に置かれた若者を地域や学校に戻してあげることは、我々の役割だと考えています。若者と関わる際には、必ず保護者に連絡をとり、今後の支援について話しあい、地域や学校に戻ることができる環境をつくることに取り組んでいます。女性の問題としては、いわゆる“パパ活“をしている若者が多く、なかには進学校に通っている子が親や学校から過剰なプレッシャーを受け、将来への不安からそのような行動をしてしまうケースもあります。そのようなケースでは、学校のスクールソーシャルワーカーや福岡県警察の少年サポートセンターと連携し、立ち直りに向けた可能性を探り、支援をコーディネートしながら伴走支援を行っています」（小野本理事長）。

若者と信頼関係を構築するうえで大切にしていることとしては、電話で相談があった際には、必ず相談を受けた当日に対面で対応することを心がけており、電話相談は24時間365日体制で対応しているという。

SNS環境とカウンセリングルームを整備

そのほかにも、助成事業ではホームページやFacebook、Instagramを開設し、法人の活動を周知するSNS環境を整備するとともに、問題を抱えた若者と保護者が体面的な心配をせずに相談できるカウンセリングルームを開設した。

「これまで当法人の活動は、口コミで広がってきたこともあり、ホームページやSNSを活用した情報発信に力を入れていませんでしたが、開設後は半年間で1000件を超えるアクセスがあり、生きづらさを抱える若者や保護者からの問い合わせや相談が増加しています。また、カウンセリングルームは、問題を抱えた若者や保護者の相談対応のほか、関係機関や支援団体の担当者とのケース会議で使用しています。相談内容としては保護者

この著作物は著作権法、国際条約およびその他の知的財産権に関する法律や条約によって保護されています。版権者（独立行政法人福祉医療機構）ならびに著作権者の許可を得ない複製（コピー）、再配布を、固くお断わりいたします。

NPO 法人 SFD21JAPAN
事務局
中嶋　康子氏

からの不登校・ひきこもりに関するものが多く、学校の教師やスクールソーシャルワーカーから相談が寄せられることもあります」（中嶋氏）。

さらに、若者の立ち直り支援に携わるスタッフの知識の向上と育成を目的とした研修会を開催した。

計11回開催した研修会では、教師や看護師、保護観察官、弁護士、元警察官を講師に招き、「社会的養育の流れ」、「発達障害」、「保護観察官の役割や更生保護について」、「少年犯罪の弁護人として」などをテーマに講義と意見交換を行い、法人スタッフや地域の支援関係者など延べ172人が受講した。

「当初は、法人スタッフのみを対象にしていましたが、連携団体や関係機関から参加希望があり、オープンな学びの場として開催しました。地域全体で支援に関する知識を共有するとともに、受講した関係機関・支援団体と顔の見える関係を構築することにもつながっています」（中嶋氏）。

福岡市の居場所づくり事業を受託

助成事業の成果として、さまざまな課題を抱える若者と対話する環境をつくり、活動を通して「隠れた非行」の問題構造を把握することができた。

「『糸島キャンパス』で運営しているこども食堂は、若者だけでなくひとり親家庭の利用も多く、こどもの生活状況や学校でのトラブルについて把握することができました。物質的な支援以外にも孤独感や疎外感などが問題行動の原因と思われるケースもあり、居場所の重要性をあらためて認識しました。また、『腕大学長垂海岸』では、行政と連携し、ボランティア活動を組みあわせた活動を行い、多世代交流を実現しましたが、行政からも継続的に開催していきたいという要望をいただいています」（小野本理事長）。

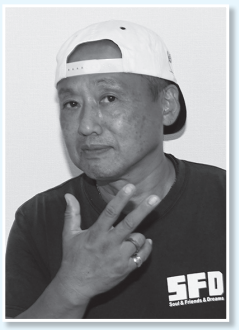
助成事業の波及効果として、若者の居場所づくりの活動を評価され、令和6年4月から福岡市の「若者の居場所づくり活性化事業」の受託に至った。

この事業では、これまで培ってきた若者の居場所づくりの開設・運営に関するノウハウを掲載したハンドブックを作成し、居場所運営のコーディネートやサポート業務を担っており、新たに市内6カ所での居場所の開設につながったという。

多様な課題を抱える若者との対話を通して、寄り添いながら支援につなげる同法人の今後の活動の広がりが期待される。

アームレスリングをツールとした支援のメリット

NPO 法人 SFD21JAPAN
理事長　**小野本　道治氏**



アームレスリングをツールとした若者の立ち直り支援のメリットとしては、体力が有り余っている若者だけでなく、老若男女を問わず誰でも参加できることがあります。親子で参加するケースでは、父親が息子より強いことも多く、家庭で立場の弱った父親が一目置かれたり、支援者として活動に携わってくれる方も少なくありません。

一般的に居場所では、母親など女性が中心となりがちですが、男性のスタッフや参加者が多いことはアームレスリングをツールとした活動の特徴だと思いますし、さまざまな視点から支援を考えることにもつながっています。

◆団体概要

〒819－0376
福岡市西区女原472－2
ＴＥＬ：090－1194－3235
ＵＲＬ：https://sfd21japan.com
設　　立：平成24年10月（任意団体：平成13年）
理 事 長：小野本　道治

WAM助成
社会福祉振興助成事業に関するお問い合わせ

●NPO リソースセンター
NPO 支援課（助成事業の相談・募集、NPO の融資相談等）
TEL：03-3438-4756　FAX：03-3438-0218（共通）
NPO 振興課（助成事業の広報、事業評価等）
TEL：03-3438-9942　FAX：03-3438-0218（共通）

NPO等の民間福祉活動への応援よろしくお願いします！
当機構では寄付金を募集しています
お問合せ先：03-3438-0211（総務部総務課）

この著作物は著作権法、国際条約およびその他の知的財産権に関する法律や条約によって保護されています。版権者（独立行政法人福祉医療機構）ならびに著作権者の許可を得ない複製（コピー）、再配布を、固くお断わりいたします。